

## I 居場所カフェ事業

### 1 目的

現在、我が国では約7人に1人の子どもが貧困状態にあると言われています。厚生労働省の国民生活基礎調査の最新の結果（2020年7月発表（2018年調査））によると、17歳以下の「子どもの貧困率」は13.5%。前回の2015年調査の13.9%よりはやや改善しているものの決して低くはありません。ひとり親世帯の貧困率は48.1%にも上ります。OECD（経済協力開発機構）調査によると平均12.8%よりも高く、42か国中21番目の高さ、ひとり親世帯の貧困率では、韓国、ブラジルに次ぐ3番目の高さとなっています。

また、高校中退率が全国平均で1.3%（千葉県1.1%）であるのに対して生活保護世帯は5.3%（千葉県4.6%）、ひとり親世帯は3.9%（千葉県3.4%）とかなり高くなっていたり、大学進学率も全国平均で55.2%（千葉県60.1%）であるのに対して生活保護世帯は23.1%（千葉県25.1%）、ひとり親世帯は29.1%（千葉県31.7%）と半分以下の低さとなっている現状もあります。（子どもの貧困の社会的損失推計レポート2016年（日本財団））



「めぐり Cafe」会場の様子

こういった現状に対して、子どもたちが安全安心して過ごすことの出来る機会の創出として「第三の居場所づくり」の活動が全国で拡大してきています。匝瑳高校は2018年度から初めて県内全域の高校に配置が始まったスクールソーシャルワーカーの拠点校として、生徒とその家庭への支援・学校と市町村など関係機関との連携協力に力を入れています。2019年度に初めて、スクールソーシャルワーカーらが中心となり「教室でもない。家庭でもない。第三の居場所」として、生徒たちが自由に過ごすことの出来る居場所カフェ事業を試行的に開始しました。カフェの名前は、校名の「匝」から「めぐりカフェ」としました。

カフェ開催の目的としては

- ① 安心で安全な居場所の提供
- ② 文化資本のシェア
- ③ 必要な支援へのつなぎの場

を掲げ、「校内に第三の居場所をつくり、生徒と地域の大人が交流を深め、信頼できる大人に相談できる環境づくり」を目指しています。

## 2 実績

試行的に開始された「めぐり Café」ですが、本格的な活動を開始する予定だった2020年春に、ちょうど新型コロナウイルスの世界的な感染拡大の影響を受け、活動休止に追い込まれてしまいます。緊急事態宣言の発令による学校の臨時休校や、様々な学校行事の中止、まん延防止重点措置の適用による不特定多数での活動の自粛など、開催見合わせは約2年近くの長期間にわたりました。ようやく2022年1月、飲食なしという形式とはなりましたが、食堂のスペースを利用して、久しぶりの再開にこぎつけました。

2022年度からは、千葉県の新規事業「課題を抱える高校生の居場所設置・相談支援事業」のモデル実施事業5か所の一つとなり、海匝地区の中核地域生活支援センター「海匝ネットワーク」のスタッフと連携し、4月から毎月1回のペースでの開催を続けています。開催時間は、全日制の生徒たちの放課後、かつ、定時制の生徒たちの授業開始前ということで午後4時から午後6時ごろまでとしています。当初は、飲食は基本的になし（生徒にはお菓子とジュースを帰りに渡す）でしたが、感染拡大が落ち着き、様々な学校行事の再開に合わせ、現在は会場での飲み物とお茶菓子の提供と持ち帰り用のジュースとお菓子の配布を続けています。



ミニピアノ演奏会



広い食堂スペースを活用

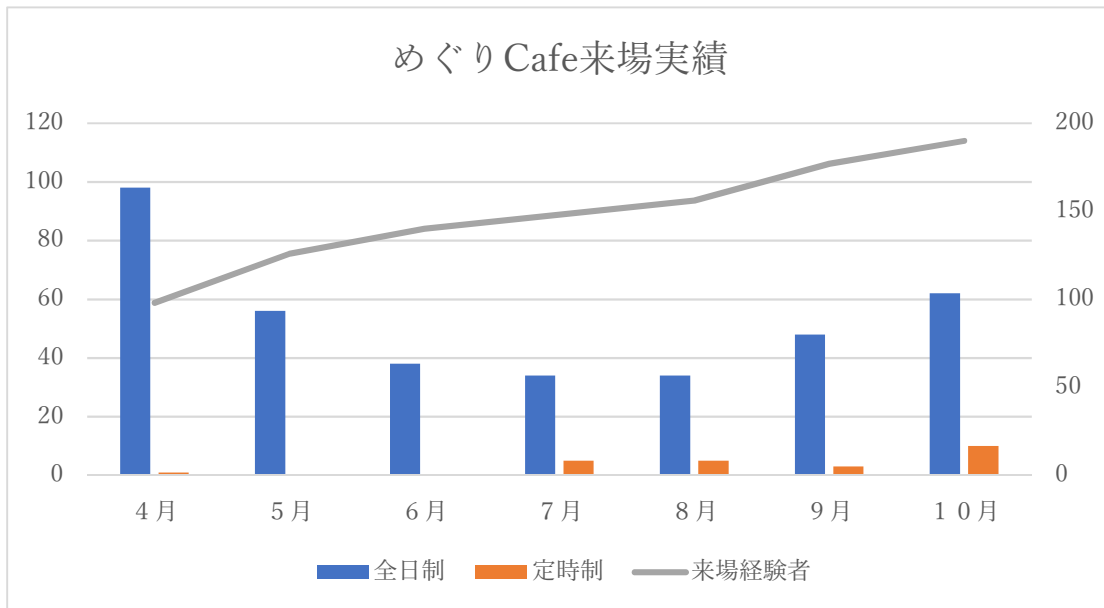
## 3 来場者の推移

2022年度からは毎月最低必ず1回開催しています。新入生が入学直後の4月の初回には、なんと99名もの生徒が来場しました。その後は、真夏の暑い時期でやや来場者数は少なくなった（食堂はクーラーがなく、クーラーのある教室で過ごす生徒からは敬遠されたのかもしれませんが）ものの、夏休み明け以降は再び増加に転じています。何度も来場するリピーターが多い一方で、毎回ある一定数の新規来場者があり、これまでに1回でも来場したことのある生徒は190名、全校生徒のおよそ3人に1人は来場したことがある、という現状です。生徒たちの様子を見てみると、前にも来たことがある生徒（リピーター）が、まだ来たことがない生徒を誘って一緒に来る、というパターンが多いようです。7回すべて参加という生徒も6名（1年生3名、2年生3名）います。また、全日制の生徒で部活動に参加している生徒にとっては、午後4時から6時だとそもそも行きたくても行けない、ということも多いようです。こういったことから、生徒の認知度はかなり高くなっていると思われま

	来場者数	全日制	定時制	来場あり	新規来場	再訪率
① 4月20日	99	98	1			
② 5月11日	56	56	0	28	28	50.0%
③ 6月8日	38	38	0	24	14	63.2%
④ 7月13日	39	34	5	26	8	76.5%
⑤ 8月31日	39	34	5	26	8	76.5%
⑥ 9月14日	51	48	3	27	21	56.3%
⑦ 10月5日	72	62	10	49	13	79.0%

※以前来場あり、新規の区分および再訪率（リピーター率）の集計は全日制生徒のみ

※第7回までの来場経験ありの生徒 190名（全日制）・・全生徒の31.1%



#### 4 運営の工夫

運営については、めぐりCafe実行委員会を組織し、校務分掌にも「めぐりCafe」担当を明記し、定期的に学校の教職員と中核地域生活支援センターと運営についての打ち合わせ、協議を行っています。学校側の窓口は、社会福祉士でもある県スクールソーシャルワーカーが務め、関係機関との連携協力を進めています。地元匝瑳市の社会福祉協議会や民生委員児童委員、地域の里親の方など、毎回多くのボランティアが活動に参加してくれています。

校内体制としては、開催告知として、ポスターを校内6か所に掲示する他、全クラスへも担任を通して教室掲示用のカラーチラシを配布しています。さらに、開催前日もしくは前々日に全生徒向けに学習支援ソフトでの配信により広報しています。



また、会場入り口には、今年春に作成したのぼり旗が掲げられるほか、毎回、美術部員が黒板の立て看板のイラストを描いてくれています。



10月はハロウィン特別企画を行いました



ゲームやおしゃべりで盛り上がっています



生徒たちの明るい笑顔があふれます



毎回好評のお絵描きコーナー



運営ボランティアと交流する生徒たち



お互い何となく顔なじみになってきました

## 5 今後に向けて

今後も、地域の関係機関と学校が連携協力して、子どもたちのために活動を継続していくことが重要です。活動の継続性・持続性のために、運営スタッフの育成・確保や資金面での運営基盤の確保などにも取り組むことが求められています。

また、現在は飲み物とお茶菓子のみとなっている提供物についても、近い将来は、お茶菓子以外にもパンやおにぎりなどの軽食の配布、さらには特に定時制の生徒たちに向けて、かつての夜間給食のような温かい食事の提供ができないか計画しています。

高校生という大切な時期にもかかわらず、ヤングケアラーやひとり親世帯の貧困など家庭環境の不安定さの影響を受けている子どもたちは少なからず存在しています。そういった複合的な家庭の課題を抱える子どもたちは、家庭が大変な状況でも自らは誰かに相談しようとは思わない場合がほとんどです。そういった若者世代たちと居場所カフェでつながり、SOSを出す力づくり、きっかけづくりが重要です。あなたは社会に頼っていい・支援を受けられるのだ、ということを伝える場にしていきたいと考えています。親でも先生でもない大人との出会いを通じて、色々な世界を知って欲しい。私たちは、未来ある若者たちの応援団でありたいと思っています。



## II 美術部 直売所なのはな壁画制作

- 1 作成日 令和4年2月
- 2 参加生徒数 17名（2年生8名、1年生9名）
- 3 概要

地域の農産物直売所から、匠高美術部に壁画を描いてほしいと依頼を受け実施。以前から地元企業の看板デザインや壁画制作に積極的に取り組んでおり、それらがきっかけで今回の依頼となった。制作を始める前には、どのような壁画にするか依頼をくださった方と生徒たちで会議を行い完成のイメージを固めていった。

制作期間は3日間。その途中、直売所のお客さんや野菜の生産者の方から「頑張ってるね！完成を楽しみにしているね！」と多くのお言葉をいただいた。時には、焼きたての焼き芋や温かい飲み物の差し入れをいただいたこともあった。

全体のデザインは、生産者さんをイメージした車掌さんを先頭に、トロッコ型の野菜たちが賑やかに菜の花畑を走り抜けている様子となっている。制作途中には、ペンキの混色の具合や塗り方、その他の細部まで部員たちで確認し合いながら進めた。

●制作の様子。事前に決めたデザイン画を見ながら、チョークを使用して下描きをする。直売所のお客さんの中には、匠瑛高校のOBや美術部の作品展に毎年来てくださっているという方もいたため、時々生徒たちもその方達との会話をしながら活動をする事ができた。





●完成の様子。(写真下4枚)

お店が明るい雰囲気になった！とても元気が出る！などといった多くの感想をいただいた。制作前の会議や制作中の地域の方々との関わりなど様々な場面で、生徒たちは地域との繋がりを感ずることができた。その後も、美術部のポスターをお店に掲示していただくなどの関わりが続いている。一つの活動がさらに次の活動へ続くよう、地域との関わりを丁寧な築いていきたい。



4 今後に向けて

美術部に限らず、学校として地域の要望にできるだけ応えていきたいと考えています。学校は地域の要望に応え、地域の方々も学校を理解し協力していただく体制をこれからも様々な分野で構築していきたいと考えています。

### Ⅲ 仕事を知ろう ～教職編～

- 1 テーマ 『様々な校種を知り、教育現場を見て、感じよう&考えよう』
- 2 目的 ①参観・活動・交流・講演を通して、職業意識の向上と職業観を育む。  
②学校という職場や教員の仕事について理解を深める。  
③生徒自身が進路選択や適性について考える機会とする。
- 3 実施日時 令和4年10月3日(月) 9:00～14:00
- 4 研修場所 千葉県立飯高特別支援学校
- 5 参加生徒 11名(1年生5名、2年生6名)

#### 【9:10 飯高特別支援学校 到着】

先生方の案内で、図書会議室へ移動



着替えて準備完了。



コーディネーターの太田裕子先生(匝瑳高校のOG)から、学校の概要、自立支援活動とは何かをお話いただきました。学校の様子動画を視聴。校長先生からは、なぜ教員になったのか、貴重なお話をお聞きできました。

- ・1年生☞ 小学部 低学年教室へ移動
- ・2年生☞ 小学部 高学年教室へ移動



#### 【9:45～ 小学部参観】

小学部低学年の朝の課題学習の様子を参観。



#### 【生徒の感想】

- ・クラス内にパーティションが複数設置され、感染対策も万全でした。
- ・児童1人に先生が1人  
☞安心&静か&集中力UP
- ・それぞれの課題に真剣に取り組んでいた。

#### 【9:45～ 小学部参観】

小学部高学年で、個別の活動を見学させてもらいました。



#### 【生徒の感想】

- ・個人個人の癖や特徴にあわせた課題を行っていた。先生方は繰り返し教えたり、その子ができるまで待ったりしている。
- ・課題ができた時はとても楽しそうだった。
- ・1人でやりたい児童は1人でやり、先生は見守っていた。



【10：15～小学部体育を体験】

体育館で朝の運動（リズム運動）に参加し、一緒に体を動かしました。

準備体操・歩く・走る・飛ぶ・踊る、など、それぞれのペースで行う体育の時間は、普段の高校での体育の時間とは違うゆったりした空気が流れ、音楽に合わせて全員が一緒に運動を楽しみました。

この頃になると、小学生は体験に来たお兄さん・お姉さんに興味津々で、中には積極的に話しかけてくる子も。高校生のお兄さんお姉さんは、腰を落として、目線を合わせて、小学生の話に一生懸命聞いてあげていました。



【11：00～ 全校集会に参加】

体育が終了すると、小学部から高等部までの児童・生徒による、文化祭の進捗状況の報告会が実施されました。コロナ渦で全校児童生徒が一同に体育館に集合することはできないので、高等部の生徒さんはリモートで集会の進行をしていました。

装飾班、製作班など多くの班が文化祭に向けて準備状況を説明していました。学校全体がこのイベントをとっても楽しみにしていることがうかがえました。



【12：00～ 昼食指導 参観】

児童（生徒）の皆さんの給食の様子を見学しました。

【生徒の感想】

- ・先生1人と児童1人で、隣で食べていた。
- ・噛みやすくするため小さく刻んだり、食材を切ったり、1人ひとりの特徴に合わせていた。
- ・黙食だったけど、楽しい雰囲気だった。

【13：00～ 先輩の話を聞く】

現在、飯高特別支援学校で教員としてご活躍中の匝瑛高校OG（2名）からお話を聞きすることができました。

先輩が教員を目指すこととなった出来事、教員を志した時期、高校時代の過ごし方、教員のやりがい、生徒（児童）と接する際に心掛けていること、日々の嬉しい（悲しい）出来事など、現職の先生方からの貴重な体験談に、匝瑛高校の生徒達はじっと聞き入っていました。

【生徒の感想】

- ・教員になろうと思ったのが大学生の時のボランティア体験だったと聞いてびっくりしました。
- ・医療的ケアも教員がすること、生徒の家庭に訪問して勉強を教える制度があると、初めて知りました。
- ・高校時代は何か一生懸命に取り組めるものを見つけようと思った。





### 【14:00 一日体験終了】

児童・生徒のみなさんはまだ午後の授業中でしたが、匠瑛高校生の教職体験は終了しました。見学、体験、講義など様々なプログラムをコーディネートして、本校の生徒を受け入れてくださった飯高特別支援学校の先生方、本当にありがとうございました。

### 【参加した生徒の感想・メモより】

- ・『「出来ない事を出来るようにする」よりも、「得意なこと・出来ることをさらに広げていく』』という言葉が印象に残りました。
- ・体調管理が難しい生徒さんには、訪問学習の先生が自宅で学習支援をする制度があることを知って、驚いた。また、訪問する先生は、自分の体調管理もしなければ生徒さんに迷惑がかかるとおっしゃっていた。学校内だけでなく、普段から責任感を持って仕事に取り組む姿勢に驚いた。
- ・子供の数に対して、先生の数がとても多いと思った。
- ・色々な支援（地域や、違う校種との交流）が多いと、生徒・児童のみなさんに刺激がある。自分たちが訪問したことで、喜んでもらえたら嬉しいと思った。
- ・先生間の打合せが大切だ、というお話を聞いた。同じ方向を向いて仕事をしているのだと思った。だから学校全体が暖かい雰囲気なのだと感じた。
- ・先生方の声かけや表情が優しい。初対面の私でも安心したので、学んでいる児童・生徒の皆さんは毎日安心して学校生活を送ることができていると思う。
- ・先生と生徒（児童）の信頼関係があると思った。
- ・「必要なことを、必要な時に、必要なだけ」  
＝こちらが手をかけすぎると、子供の側から見て迷惑な時もある。
- ・何か行動をするときは、必ず「予告」をしている。相手に伝わったことを確認して、先生は動く。「予告」がないと、不安を感じる生徒がいるようだ。実際、私も歯医者で「削りますね」と言われてから歯を削られた方が、不安が少ない。なるほどと思った。
- ・使う言葉に気をつけている。

【例】人に対しては『乗る』『降りる』はいいが、『乗せる』『下ろす』は×。

- ・最初は、普段関わりが無い子ども達とどうやって接したらいいか分からなかった。
- ・興味のある話題をはじめにふると、仲良くなりやすい。
- ・視線を揃えることの大切さ。
- ・体育館にエアコンが設置されている。体温の調節がうまくいかない生徒さんのためだと聞いて納得した。
- ・先生方は8:30~15:00（生徒・児童の下校）まで休憩時間が全くない。給食の時間も食事を楽しむというより、「指導」の一環だと聞いた。コロナの中では、黙食にも気を遣うので、実際はもっと大変なんだろうと思う。
- ・教員という仕事を自分の進路の1つの選択肢として、真剣に考えるきっかけになりました。

### 6 今後の方向性

今年度初めての交流となり、次回は本校に飯高特別支援学校の教員を招き、本校生徒にポッチャ体験をしていただく予定となっています。お互いの生徒にとっても大変貴重な交流ですので、次年度以降も相互に交流を継続しお互いの教育力の向上に努めていきます。

### 最後に

令和5年に創立100年を迎え制服を新調し、さらに創立100周年記念式典が実施される令和6年に進学重視の総合学科に生まれ変わります。現在準備を進めているところですが、これまで地域の方々の御理解のもと歴史を刻んできました。これからも、総合学科に生まれ変わる匠瑛高校は、これまで以上に地域から信頼され、地域に根差した学校づくりに邁進していきます。